

2024年1月

震災や挨拶湿る年始め 恐ろしき年の幕あけ初詣 逢えずとも眼裏に見て賀状書く 元日や能登人襲ひし大地震 長生きに孫から届くお年玉 安倍川の清き流れに泥の舟 大人でもまだ脛かじる十八歳 フライパン一つで回す独り飯 出てこない名を気にしつつ会話する 曾孫と歌う童謡「お正月」	朗々と紙芝居読む幼らに バス旅行夫と写りし美人誰れ 老講師ピンクシャツにて万葉集 私もよそっと手を貸す病棟内 どうだんを揺らして遊ぶ小鳥たち 手術終えまず見し世界白銀に 初東風やグラウンドゴルフいざ勝負 新玉の幸せいっばいの孫の笑み 門松や空にスクッと伸ばす手よ
---	---

2024年2月

赤と白順に落ちたる椿かな 大寒にグラウンドゴルフで背筋伸び 節分や童に元気もらいけり 亡き友のアドレス消せず冬日没る 水仙や植え逝きし夫ぞなつかし 参道の雛の優しや可睡齋 たちばなで問われし返歌ほととぎす 隅っちょにそっと咲きたる仏の座	初雪も嬉しがらずや幼き子 仏の座教へし孫も高校生 猿が札欲しがりましてと猿回し 悪口をラインで間違え本にへ 探し物あるはず半径2メートル うな重を孫にもらひしお年玉 大寒に冴える満月誕生日 一陣の風の如くに娘は帰る
---	--

2024年3月

マイスマホなぜか落さぬ一歳児 株高も賃上げも我無関係 甘い汁吸わずに汗をかいてよね 恐るるは妻の記憶の正確さ 孫三人三人程のにぎやかさ 妻笑い一寸の間にも幸せが 真夜含む水の冷たき春遠し ヒヤシンス紫色の春告げぬ 草紅葉春の日差しにひれ伏しぬ	大根や赤子のような抱き心地 しだれ梅雲に乗らんと揺らげる 私の歩に子の待ちくれし探梅行 知っていてわしは知らぬと鉄仮面 甘い汁とうとうばれて仕舞けり 長生きも健康でこそめでたけれ たちばなを生けて話せり但馬守 月命日深山つつじは咲き始め 歌声は反戦の色響き合い
---	--

2024年4月

雪柳老いの二人にひとおどり 庭の隅ひとときわさえしトサミズキ 点滴よ私の心も知らずして 抜きし草雨の翌朝生き返り 雨戸開け顔を合わせし野良の猫 不意をつく姑の使ひしことわざよ 春うらら山の彼方に白き山 この世にも浮世床なる床屋あり	早起きや桜の下の陣取りに 花未だ観光バスの人黙 遅桜ここでやさしき風となる 花びらの渦まく風の行き止まり 大谷は罪かっ飛ばすホームラン だんだんと地震に慣れてゆく怖さ ファーストサマーウイカ意外と日本顔 ばばとよばれ不機嫌となりし日を懐かしむ
--	--

2024年5月

伽羅路で毛蟹釣ったり五月晴れ 箝口令布いて大荒れ立つ瀬なし KYか昼行燈か曝される 伽羅路の季節めぐりて六十年 夫の手を借りて大鍋振り上げる 母の日の早々届く宅急便 病む友へ孤独のラインや春の闇 ふり向かば風のむらさき熊野の藤 知己に会う心地や竜舌蘭の咲く まつり笛笑顔はじけるみこしかな	病院の窓にゆれたる山の藤 エゴの花真盛りなる空青し 潮見坂はるかな沖を小舟ゆく 春の海辺防波堤を歩く人見ゆ 花博やフジ棚つづく下に行く 会う毎に進化しているひまごの絵 医者さとし無理は禁物だが歩け 青薔薇の遺伝子改良目の当たり 今も言うおまえが男であったなら
---	---

2024年6月

杜鵑花濃き雨もまたよし箱根旅 霞立つ山も名所もなかりけり 葱坊主今日も奏でる風の歌 梅雨空や犬はふて寝か大いびき 老鶯や雨の竹林奥深し 紫陽花の色深き朝今日は雨 決めたのに覚えがないと言う輩 三日月に腰を下ろしてみたくなり 脱ぎ捨てし冬物ばかりクローゼット	ジルバして調子によって膝壊し 同窓会笑み向けられてきて誰だ 女王蜂二匹戦い巣は割れて ジャカランダ咲く日の下友と行く 歩を止めて待ちくれし子と墓詣で 毎夜を娘に報告す今日は無事 裏庭にあじさいの色極まりぬ ふわふわと未央柳は場所を占め 吾の許に長崎の枇杷旅終へぬ
--	---

2024年7月

杜鵑花濃き雨もまたよし箱根旅 霞立つ山も名所もなかりけり 葱坊主今日も奏でる風の歌 梅雨空や犬はふて寝か大いびき 老鶯や雨の竹林奥深し 紫陽花の色深き朝今日は雨 決めたのに覚えがないと言う輩 三日月に腰を下ろしてみたくなり 脱ぎ捨てし冬物ばかりクローゼット	ジルバして調子によって膝壊し 同窓会笑み向けられてきて誰だ 女王蜂二匹戦い巣は割れて ジャカランダ咲く日の下友と行く 歩を止めて待ちくれし子と墓詣で 毎夜を娘に報告す今日は無事 裏庭にあじさいの色極まりぬ ふわふわと未央柳は場所を占め 吾の許に長崎の枇杷旅終へぬ
--	---

2024年8月

バアバ来て呼ばれて行けば姿なし 一瞬に決まる定めや目に涙 鉄棒の神業紛ふ美の極み 夫墓へ先回りする黒揚羽 亡き母の浴衣の染みや遠花火 夏夕日水車に光零しつつ 海の日イルカいないか要注意	買占めを見れば一つは欲しくなり もう二十日地獄の釜の底にいる フリテンのロンに気づかぬへボ勝負 夏休みあやとり遊び伝へけり 小三にせがまれオセロ勝ちにけり 『疎開っ子』われを呼びたる田舎の子 猛暑だね男も日傘の今年かな
--	---

終戦か敗戦かでも空高し 不発弾あちこちありて平和なり	暑いねえあいさつひとつ日々を過ぎ 日々猛暑鳴くを忘れし蝉時雨
-------------------------------	-----------------------------------

2024年9月

惜しみなく木槿は花を落としたり 秋澄むや湖水に残照うつし込み 朝涼しコーヒークップに差すひかり 秋彼岸妻と二人で墓掃除 赤とんぼ除草のあとをすいすいと 買物について行くだけ初サンマ 地震来るその想定で部屋整理	こもごもに末は博士か裏金か 裏引きを頂きに変えヒロインへ 足神の大祭の都度届く札 裏金もどこかに消える秋の空 突然に竜巻起こる温暖化 おおらかに老後楽しみ秋深し 無花果を啄ばむ小鳥いとほしや
--	---

2024年10月

惜しみなく木槿は花を落としたり 秋澄むや湖水に残照うつし込み 朝涼しコーヒークップに差すひかり 秋彼岸妻と二人で墓掃除 赤とんぼ除草のあとをすいすいと 買物について行くだけ初サンマ 地震来るその想定で部屋整理	こもごもに末は博士か裏金か 裏引きを頂きに変えヒロインへ 足神の大祭の都度届く札 裏金もどこかに消える秋の空 突然に竜巻起こる温暖化 おおらかに老後楽しみ秋深し 無花果を啄ばむ小鳥いとほしや
--	---

2024年11月

無花果の最後の一つもずが食む 茶の花を捧ぐ大黒ゑびす様 伊那の旅夫の土産の御幣餅 髪洗ふ明日は手術や秋夕焼 病棟の深海ひとり秋の月 石路咲いて花なき庭を艶やかに 雷に犬ががごと抱きついて 雨後のチョウ楽しからずや陽をあびて	秋すずし鳴くの忘れた蝉時雨 相槌はいつか途絶える長話 どの国もにんじん見せれば選挙勝つ おすそ分け渡す楽しみ林檎狩り 晴れやかな子らが和服の七五三 霜月に霜降り食はばまだ夏日 山東の例もあるよと石破さん
--	---

2024年12月

かりん三個転がり落ちて庭暮れる 街路樹の色落されて街静か 物価高工面の話盛り上がり 冬枯れの庭に優しきつわぶきの花 ようやくにもみじ色づき つわぶきも咲く 萩の原枯れ咲く中に入りけり 雛の家こころ和める吊るし柿 名刹の廊下の軋み紅葉狩 風ふくやおでんくつつつほほゆるむ	愛着地じいじばあばの日なたぼこ 妻の味すき焼き御膳腹ぬくし 歳の瀬や鍋に向き合ひ老ふたり カメ虫の害多し柿みかん 核兵器根絶願う平和賞 天保のシエクスピアの劇探し 托鉢の僧より受けし「聴」の文字 水仙のつぼみをつけぬ師走かな 白き月中空にあり日は沈む
---	---